

「あんたは、だれ？」妻や夫にそういわれたときのことを考えたことはありますか。超高齢化社会の到来、やがて老いる自分、そして認知症にならないかという不安。これは中年以上の多くの人が抱える問題です。

また、高齢者の社会活動が活発になるにつれ、認知症は介護の問題のみならず、徘徊や自動車事故の増加などで大きな社会問題となつてきております。

加齢に伴い記憶力が低下するのは足の力が落ちるように当たり前のことです。数百億ともいわれる脳細胞は20歳頃からどんどん消滅し機能が低下してきます。しかし、食べたり動いたりという生きることには必須の脳細胞は比較的保持されます。認知症の代表であるアルツハイマー型認知症では、最初に「海馬」という記憶をつかさどる部位が障害されます。そのため新しく体験・記憶したことを忘れてしまいます。最初、人の名前が思い出



コラム
人権の眼 No.48

認知症社会の中で

淡路市国民健康保険北淡診療所長 **井宮 雅宏**

せない、置き忘れが多くなるなどの高齢者に共通して生じる「物忘れ」と同じなのですが、やがて先ほど体験したことをすっかり忘れるようになり、判断力や実行能力の低下により日常生活に支障が出始めます。しかし、「物忘れ」の段階で早めに手を打つと、約半数の方は悪化しない、または回復することも最近の研究でわかっております。

マスメディアは高齢者の交通事故を大きく取り上げる傾向があり、認知機能に障害がある方の運転免許証の更新も厳しくなつてきました。それはある程度仕方ないことと思えますが、それでも多くの脳の機能は残っています。

つまり、生命保持や身体活動に関することはもちろん、感情などは正常であることが多く、なにより本人は生き生きとしております。「認知症」はごく一部の脳機能の低下だけであることを知ることは、上手に認知症社会に向き合うこととなります。

Pick up 人権 VIDEO じんけん ビデオ

『マララ』

「教育を求めて闘う少女」

パキスタンなどのイスラム過激派がはびこる地域で、少女たちが、学校へ通うことができない状況(男尊女卑意識)におかれています。

2012年10月、パキスタンの少女マララ・ユスフザイは、タリバンに銃撃されました。イスラム社会における女子教育の必要性を訴えて活動していた彼女は、タリバンの標的となつていました。

治療のためパキスタンから英国に緊急搬送され、奇跡的に回復しました。現在は、英国に住み、女子教育のための活動を続けています。

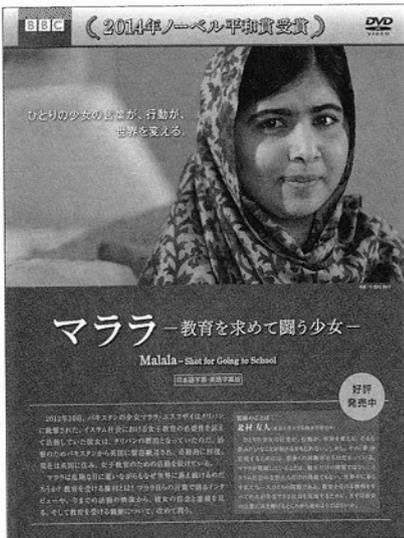
マララは、危険な目に遭いながらもなぜ世界に訴え続けるのでしょうか？教育を受ける権利とは？

マララ自らの言葉で語るインタビューや、今までの活動の映像から、彼女の信念と素顔を見るドキュメンタリー映画です。

マララが挑戦していることは、彼女だけの問題ではありません。イスラム社会の女性たちだけの問題でもありません。教育を受ける権利をすべての人が享受できる社会を実現するための問題です。

一人の少女の言葉が、行動が、世界を変えています。まずは、マララの言葉に耳を傾けてみましょう。

学校・職場・地域で、是非、ご視聴下さい。
□ 原簿制作 / BBC 2013



■ DVD 本編 30分
【問い合わせ先】
淡路市市民生活部人権推進課
TEL : 0799-64-2521
FAX : 0799-64-2565

啓発ビデオ上映会

気軽に開催できます！

地域のサロン、町内会、サークルなどの団体等で人権啓発ビデオの上映会をおこないませんか？

団体・グループのご希望する場所へ、上映機材一式を持参し、セッティングから上映、作品の解説まで承りますので、お気軽にご利用いただけます。

また、条件に合えば、活動助成金もご利用いただけます。ぜひご検討ください。お問い合わせは、淡路市市民生活部人権推進課へ。

● 編集後記・お詫び ●

「まるごとじんけん」第48号の発行が7月から8月発行に遅れてしまいました。毎号楽しみにしておられる皆様には大変申し訳ございません。

読者の皆様と双方向の会話が出来る広報紙を目指しています。「人権」が、多様性を容認できる風土づくりに貢献できますように。皆様の暮らしのお役に立てますように。(縄文人)